

# 国立大付属 入試見直し論

## 文科省有識者会議

国立大学の付属校の入学者は学力で選ぶべきか、抽選で決めるべきか。文科省の有識者会議でこんな議論が交わされている。「エリート校化し、公立校の教育に貢献する役割を果たしていない」との批判から、近くまとめる報告書に、抽選で選抜するなどして様々な子供を入学させるよう求める提言が盛り込まれる見通しだが、困惑する声も聞かれる。

### 「学力」から「多様化」提言へ



夏期講習会で学ぶ子供たち (26日、大阪市のもえぎ会)

国立大学の付属校 東京学芸大学など教員養成単科大や教員養成学部のある総合大44校と、筑波大など教員養成学部

のない12大学が計258校を置いている。学校種別では、小学校72校、中学校73校、高校15校など。児童生徒数は約9万人。

### 「エリート化」批判受け

東大合格1022人  
今春、1022人の東大合格者を出した筑波大付属駒場高校。付属校を担当する筑波大の宮本信也副学長は、有識者会議の議論に抽選で合否を決めれば生徒の学力に幅が出て、教育の質を保てなくなる「戸惑う」。

77年に指針は、過去にもたびたび取りざたされてきた。1969年、当時の文部省がテストや面接で志願者を絞った後、抽選で合否を決めるよう各校に通達。77年には、日本教育大学協会が、全ての幼稚園や小中学校で抽選を行うべきだ、との指針をまとめた。全国国立大学付属学校連盟の11年度の調査では幼稚園と小学校の約7割が抽選を行ったが、中学校の入試では2割未満で、高校は0。抽選を行った学校の大半は、テストなどの後に実施していた。

### 主な国立大付属高の、今春の東大・京大合格者数(現役・既卒合計。各校の公表資料から)

東大合格者数	
筑波大付属駒場高	102
東京学芸大付属高	46
筑波大付属高	39
広島大付属福山高	19
金沢大付属高	12
京大合格者数	
広島大付属福山高	14
東京学芸大付属高	13
大阪教育大付属高池田校舎	12
筑波大付属高	10
広島大付属高	10

### 文科省有識者会議が国立大付属校に求める主な対応(報告書案案から)

- 公立学校のモデルを目指す
- 学力テストを課さずに抽選で選抜するなど、多様な入試を実施
- 小学校から中学校など、付属校間で優先的に進学できる仕組みを見直す
- 教員研修に貢献する機能を強化
- 2021年度末までに結論をまとめ、可能なものから即座に実行

検討すべきだ」とする。お受験熱  
多くの国立大付属校は、小学校などに入学すれば、併設の中学や高校へ優先的に進めるだけに、「お受験」にも熱が入る。  
進学塾を展開する馬淵教育グループの幼児教室「もえぎ会」は26日、大阪市内で夏期講習会を開催。長女(6)を教室の外で見守った父親(39)は「国立大付属校は学ぶ意欲の高い子が集まり、教育環境が充実している。私立より費用が安いのも魅力」と話す。  
文科省によると、国立大付属校の役割は大学の教育に関する研究への協力や教育実習の場となることなどで、受験エリートとの養成は本来の目的ではない。  
一部の付属校に優秀な子供が集中する現状に、有識者会議は「公立校の実態とかけ離れている」などと指摘。入学者は抽選で選ぶか、選考に占める学力テストの割合を下げることを検討すべきだ」とする報告書の案案を今月、公表した。  
多様な子供を議論の背景には、少子化で教員の新規採用数の激減が見込まれ、文科省が国立教員養成大・学部の縮小と質の高い教員の養成を模索していることがある。  
教育実習や一般教員の研修の場として機能するために、付属校にも公立校のよう、学習や家庭環境に困難を抱えるなど多様な子供がいるべきだ、との考え方が入試の見直しで浮上した。  
早稲田大の菊地榮治教授(教育社会学)は「付属校には、多様な子供を受け入れて特色ある研究に取り組み、公立校の教育に生かせる成果を発信する努力が求められる」と話している。